

キャンパス SDGs at NKC 事前事後アンケート結果分析報告書

2018/12/15

RSGF2018 生徒実行委員会アクション部署

SGH 推進機構

キャンパス SDGs at NKC 事前事後アンケート結果分析報告書

サマリー

2018/12/15

RSGF2018 生徒実行委員会アクション部署

SGH 推進機構

事前アンケート：中学 336(/721), 高校 574(/935) 総計 910 (有効回答数)

事後アンケート：中学 354(/487), 高校 559(/935) 総計 913 (有効回答数)

*回収率 事前 55%、事後 64% (910,913/1656,1422)

中高教職員にも協力を呼びかけた。回収率約 5.5~9.5%% (11,19/200)

回収率が低いために中高教職員については除外して考察をすることとした。

- ①-1 事前事後では、認知度が 11%→44%と 4 倍以上に向上した。特に中学では顕著であった。中学：6%→40%、高校:13%→46%

仮説

早期からの教育が、認知度向上等のより一層の効果を生む可能性がある。

逆に、その回収率の悪さから成人以降になってからでの教育は遅い、あるいは困難。

- ①-2 事前にどこで SDGs を知ったのか

1.学校の授業 46%

そのうち 60%が高1で圧倒的に多かった。G J が現社、英語プレゼンテーションの中で取り扱っていたことが大きいと推測される。逆に、中学生で授業と答えた生徒が三学年合わせても 6 名しかおらず、中学の授業でほとんど扱っていないことが今回の結果からうかがえる。

また、研修系の意見も多かった。これは、多くの研修機会がある国際系コースとそれ以外で認知度の差が生まれる理由の一つなのではないかと推測される。

提言

社会や英語だけではなく、多方面から SDGs を使った授業を展開してほしい。

2.テレビ 12%

インターネットの時代とはいえ、SDGs に関する情報を自ら得ようとするのではなく、いわば受容的なメディアであるテレビの影響は大きい。

- ②張り紙の認知は高かった。SDGs 自体の認知は 40%、張り紙認知は 85.7%

しかし、これがそのまま SDGs の向上には繋がっていない

両者はイコールの関係ではなく、張り紙をきっかけにして自ら SDGs について知ろうとする姿勢の喚起という位置づけだったが、その点では課題が残った。

③標語の取り組み

取り組んだ 42.7%*、取り組まなかった 57.3%

*事前アンケートで取り組む意欲を見せていた生徒の割合より 12.1%も下がった。

仮説

意識と行動の間の乖離を埋めることができなかった。

ただ、人間の行動要因は複雑な要素が絡み合っているので、例えばインセンティブ効果など行動経済学的な観点を含んだ取り組みを検討するなどの工夫が必要。

④今後世界をよくするためにできることをしようと思うか

取り組む 85.5%*、取り組まない 14.5%

*事前アンケートで取り組むと答えた生徒の割合より 30.7 ポイント増加した。

仮説

今回のキャンペーンが意識の向上に大きく寄与したことがうかがえる。

国際問題に対する興味関心とその課題解決に対する意欲の向上にはつながったものの、今回の企画が生徒にとって取り組みやすいものではなかったことがうかがえる。それは、事後 Q4 の結果からも分かるように、具体的に何のためにどうすればよいのかということが明確でないものも多かったことが関係していると考えられる。

⑤実際に取り組んだ標語

仮説

標語の分かりやすさ、実行しやすさが表れた順になっているのではないか。家庭を含め基本的な生活習慣として身につけていると想像できる、いわば当たり前なものほど順位が高い。また、すぐに具体的な行動としづらい理念的で抽象的なものについては、その自己検証自体が難しいという側面もあり、実際に取り組んだという感覚を持ち得ない場合も考えられる。

⑥感想から 主な意見

- ・どこか他人事のような自分がいた。
- ・コアやCEも参加できる企画にするべき。学校全体でできる取り組みを増やしてほしい。
- ・張り出すだけで行動がない。きれいごとばかり。意見を交わすなど、実際に行動すべき。
- ・今後もこのような取り組みを定期的にしてほしい。
- ・コピーは#12と矛盾している。紙の資源の無駄。
- ・自分が積極的でないからかもしれないが、何をしているのか分からなかった。
- ・SDGsは何の略なのか。結局何かわからない。
- ・学校の様々なところに張り出されていて目に留まり、読むのが楽しかった。

- ・普段あまり知ることのない GL コースの活動を見ることができて良かった。
- ・アンケートの意味があるのか。
- ・ポスターをもっと具体的にしたり、イラストを入れたり工夫してほしい。
- ・社会問題に興味を持つきっかけとなった。
- ・世界で起きていることに目を向けようと思った。

感想を踏まえての総括

- ・意識向上の種まき段階としてこの企画をしたという主旨からはこの企画は成功だったと思う。
- ・SDGs の趣旨である持続可能な社会をつくる必要があることをさらに理解してもらおう。
- ・国際系コース以外の生徒も何かしたいという意欲が生まれたことに関してはよかった。
- ・紙の資源を無駄遣いすることに対して、もったいないという気持ちが生まれたことについてはよかったと思う。みんながそれに気づいてこれから紙の使用量をできるだけ減らす努力につながるのなら、今回使用した大量の紙は無駄ではなかったと考える。
- ・事前に説明や狙いをみんなにさらに伝えて理解してもらわないといけなかったのが反省点の一つだと思う。
- ・自分たちが思っている以上に GL コースの活動や勉強している内容は伝わっていない。そういうことを今回のような企画を通してもっと伝えていく努力をしていきたい。
- ・活動報告の場で分析結果を公表することにより、意味があったと思ってもらいたい。意識調査の面では大変意義のあるアンケートだったと思う。
- ・分かりにくいという意見はいくつかあったので、そこはもう少し工夫するべきだった。
- ・今回の企画の目標の一つだったので、この意見が出て良かった。

以 上

キャンパス SDGs at NKC 事前事後アンケート結果分析報告書 本文

2018/12/15

RSGF2018 生徒実行委員会アクション部署

SGH 推進機構

概要

- キャンペーン名：キャンパス SDGs at NKC（長岡京キャンパス）
- 実施期間：2018年11月10日（土）～2018年11月24日（土）の2週間
- 実施内容：①期間中に SDGs 認知向上のためのポスターの校内掲示 約100枚
②SDGs から想を得て作成した中高生にできること（＝アクション）を示した17の具体的な行動目標を記した日本語版ポスターの校内掲示 約600枚
③RSGF2018（11/13-17）期間中に海外生用として②の英語版ポスターの校内掲示 約90枚
④RSGF2018の具体的な行動計画として討議し合意した、②の発展版としての「SUSTAINABLE STUDENTS ACTIONS 17 POSSIBLE ACTIONS MADE IN RSGF2018」を示したPPスライドをメインエントランスで投映（11/26～年度末まで）
⑤事前・事後アンケートを中高全クラスおよび教職員対象に実施
⑥キャンペーン終了後にアンケート結果分析を含めキャンペーン活動報告を実施（12/19終業式後の高校全校集会）
⑦⑥について、活動報告サマリーをポスターにして校内に掲示

事前アンケート

中学 336, 高校 574 総計 910（有効回答数）

*ただし、設問によって中高別および総計のばらつきがあり（無回答等）、866～928の範囲で推移。上記数字は Q1 の回答数。

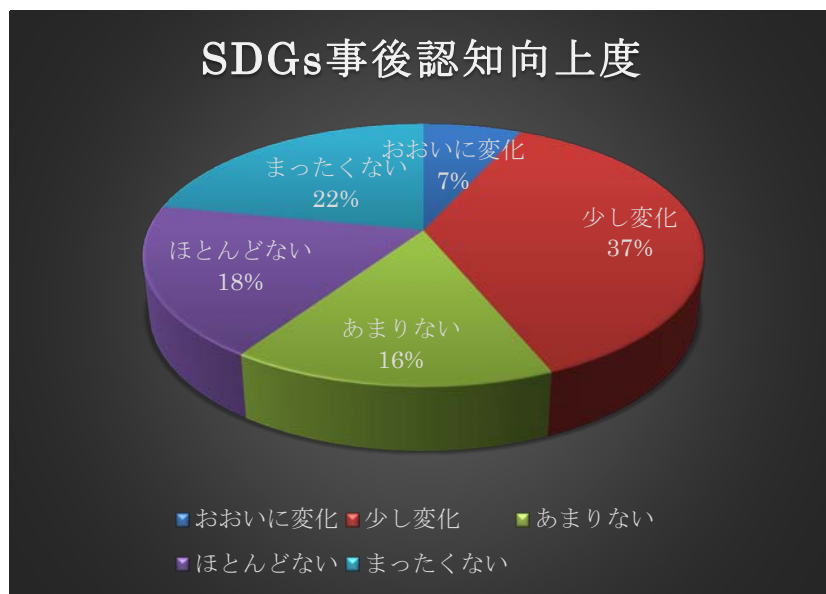
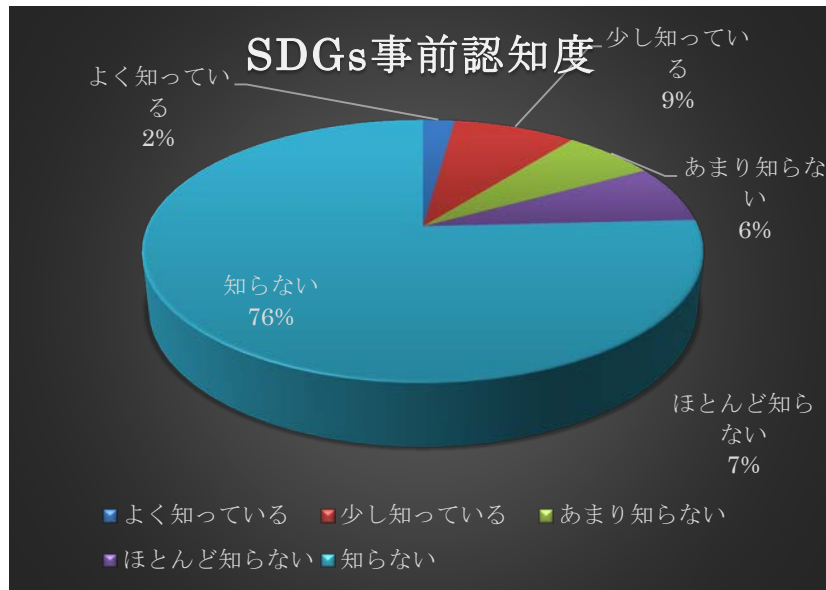
事後アンケート

中学 354, 高校 559 総計 913（有効回答数）

*ただし、設問によって中高別および総計のばらつきがあり（無回答等）、703～913の範囲で推移。上記数字は Q1 の回答数。

- 注1.事後アンケートではJ3はその期間がAA研修中のため未実施（ちなみに事前アンケート回収率はJ3が研修直前ということもあり、著しく低かった）。
- 2.GLコース2,3年（実数計74名）は事前事後ともアンケート対象外として実施せず。
- 3.中高全クラス（1656名）に協力を呼びかけた（回収率事前55%、事後64% 910,913/1656,1422）。また、中高教職員にも協力を呼びかけたが、回収率が低かったため、中高教職員については除外して考察をすることとした。（回収率約5.5～9.5% 11,19/200）

Q1.SDGsを知っているか



事前アンケートからは、SDGs 自体のそれまでの認知度が中高生徒全体で、
知っている（よく知っている、すこしは知っている を含む）が計 11%
知らない（あまり知らない、ほとんど知らない、知らない を含む）が計 89%

だったが、事後アンケートでは、
向上（大いに変化、少し変化 を含む）が計 44%
向上なし（あまりない、ほとんどない、まったくない、を含む）が計 56% だった。

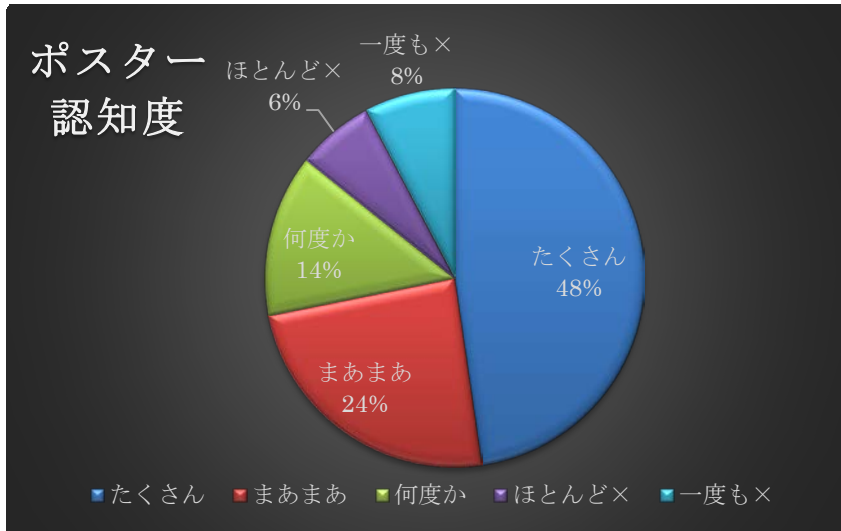
→ 11%から 44%と 4 倍に認知度が向上したことがうかがえ、大いに認知度向上に貢献

したと言える。さらに中学生に限って分析すると、その向上数値が大きいことがわかった。

→ 中学：6%→40%、高校：13%→46%

このことから、仮説として早期からの教育が認知度向上等のより一層の効果を生む可能性があると言える。

事後 Q2 張り紙を見かけたか？

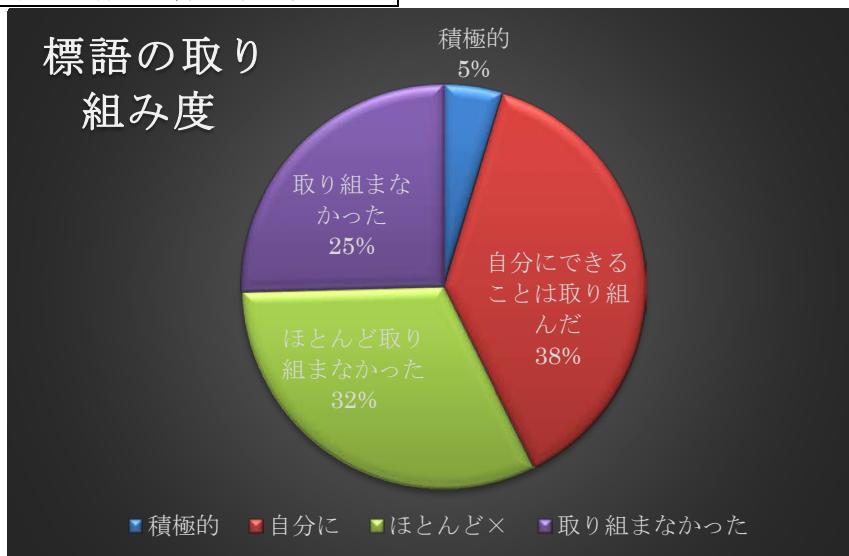


認知（「見た」：たくさん、まあまあ、何度か を含む）が計 86%

非認知（「見なかった」：ほぼ見ていない、一度も見ていない を含む）が計 14%

→ 圧倒的に認知が高かったが、これがそのまま SDGs 認知向上には繋がっていないこと（SDGs 自体の認知は 40%、張り紙認知は 85.7%）については、張り紙が SDGs 自体ではなくそれに想を得て中高生にでもできるアクションとして考えたものであったので両者はイコールの関係ではなかったこと、企画の意図として張り紙をきっかけに自ら SDGs について知ろうとする姿勢を喚起するという位置づけだったためということも考えられる。

事後 Q3 標語の内容に実際に取り組んだか



取り組んだ（「積極的に取り組んだ」「自分にできることは取り組んだ」）が計 43%

取り組まなかった（「ほとんど取り組まなかった」「取り組まなかった」）が計 57%

事前 Q3 今後の SDGs に関する活動に対してどう思うか

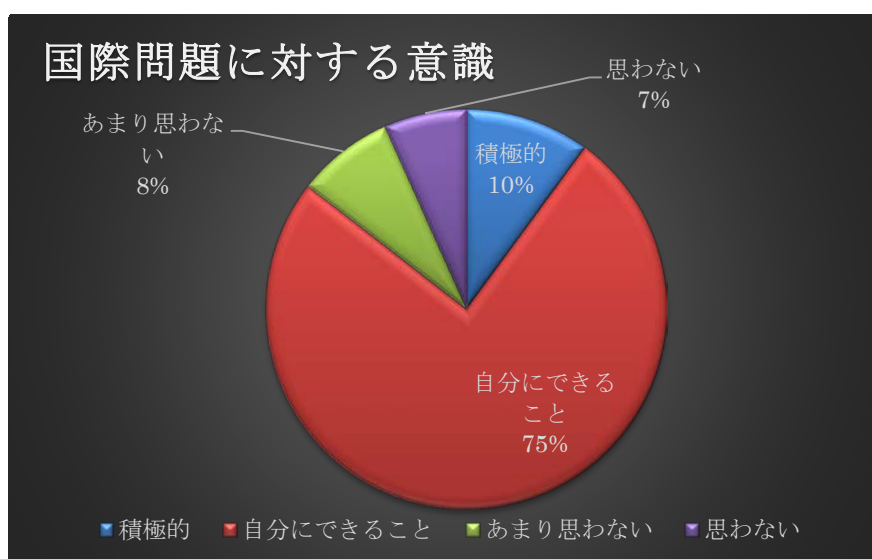
取り組む（「積極的に取り組んでいこうと思う」「自分にできることをやろうと思う」）が計 54.8%

取り組まない（「あまりやりたくないと思う」「やらないと思う」）が計 45.2%

→取り組む意欲を見せていた生徒の割合より実際に取り組んだ生徒の割合が 12.1% (101 人) 少なかった。意識と行動の間の乖離を埋めることができなかった。ただ、人間の行動要因は複雑な要素が絡み合っているため、例えばインセンティブ効果など行動経済学的な観点を含んだ取り組みを検討するなどの工夫が必要。

また、

事後 Q6 今後世界をよくするためにできることをしようと思うか



取り組む（「積極的にしようと思う」「自分にできることをしようと思う」）が計 85%

取り組まない（「あまりしようとは思わない」「思わない」）が計 15%

→世界の問題に対して取り組む意欲をみせた生徒は全体の 85% (756 人) と、事前アンケートにおいて「取り組む」と答えた人数より 30.7 ポイント (281 人) も増加した。

これらの結果から考えられることは、キャンパス SDGs の取り組みを通して、国際問題に対する生徒の興味関心やその課題解決に対する意欲の向上にはつながったものの、今回の企画が生徒にとって取り組みやすいものではなかったことがうかがえる。それは、下の事後 Q4 の結果からも分かるように、具体的に何のために何をすればよいのかということが明確でないものも多かったことが関係していると考えられる。

事後 Q4 どの番号の標語に実際に取り組んだか

中高全体順位

1. #3 手洗い・うがいをしよう
2. #7 ストップ電気のつけっぱなし
3. #2 ごはんは腹八分目まで
4. #6 音消しは水ではなく音姫を（中学 5 位）
5. #12 モノは友達
6. #11 みんなの学校を大切に（中学 4 位）
7. #15 コピーは最低限の枚数で（中学 8 位）
8. #14 財布携帯マイバッグ（中学 7 位、高校 9 位）
9. #10 みんな同じ地球人（高校 8 位）
10. #8 いつもお仕事おつかれさま
11. #5 「らしさ」にこだわらず
12. #4 目標は、生徒兼先生、 #9 いたわろうスマホと高齢者（中学 14 位）
#16 自分の「正しさ」を信じないで
15. #1 募金箱に入れてみよう（高校 13 位）
16. #13 お金も気温も上がり放題
17. #17 誰かの HELP に気付けるセンサー（中学 14 位）

・ 中高で順位はほとんど変わらない

→ 標語の分かりやすさ、実行しやすさが表れた順になっているのではないかと考えられる。

・ 一見すれば何をすればいいのかが分かる標語（8 位ぐらいまでは全てそう作られているもの）は順位が高く、その中でも家庭を含め基本的な生活習慣として身につけていると想像できる、いわば当たり前なものほど順位が高い傾向となった（例：1 位手洗いうがい）。

→ ポスター自体の認知度が高く、標語を見て考える機会が多かったことがうかがえる

・ #6（トイレでの節水）は女子トイレのみの張り出しだったにも関わらず 4 位だった。

→ パーソナル・スペースで一人で見える場所に貼った影響か。

事前 Q2 どこで SDGs を知ったのか

・ 1 位は学校の授業（46%）。その中でも 60%以上が高 1 で、圧倒的に多かった。

→ これは GJ が現代社会解析、英語プレゼンテーションの中で取り扱ったことによるもの

・ 中学生で授業と答えた生徒が三学年合わせても 6 名しかおらず、授業でほとんど扱っていないことが今回の結果からうかがえる

→ 各授業等で扱っていただければと考える。

・授業以外ではその他を除くとテレビが多い(12%)。インターネットの時代とはいえ、SDGsに関する情報を自ら得ようとするのではなく、いわば受容的なメディアであるテレビの影響は大きい。最近ではニュース番組でも耳にすることが多いため今回の企画で興味関心が高まったことから、そのことに気付けるようセンサーを張って欲しい。
その他では研修系の意見が多い。研修に参加できる国際系コースとそれ以外で認知度の差が生まれる理由の一つなのではないか。

事後 Q7 意見・感想

- ・どこか他人事のような自分がいた。
→異常気象や自然災害の増加など、自分たちにも影響があることを活動報告の場で触れて、SDGsの趣旨である持続可能な社会をつくる必要があることを理解してもらう。
- ・コアや CE コースも参加できる企画にするべき。学校全体でできる取り組みを増やしてほしい。
→三学期にもっと取り組みやすい企画を作成する予定。
- ・張り出すだけで行動がない。きれいごとばかり。意見を交わすなど、実際に行動すべき。
→今はこれから行っていく具体的なアクションに多くの生徒に参加してもらうための意識向上の種まきの段階としてこの企画をしたということを活動報告の場で説明する。
- ・今後もこのような取り組みを定期的にしてほしい。
→GL2年生とも連携して活動母体を拡大し、継続的に学校全体を巻き込んだアクションを考えていくべき。このような意見が出たことは、国際系コース以外の生徒も何かしたいという意欲が生まれたということでもあり、よかった。
- ・コピーは#12と矛盾している。紙の資源の無駄。
→紙の資源を無駄遣いすることに対して、もったいないという気持ちが生まれたことについてはよかったと思う。みんながそれに気づいてこれから紙の使用量をできるだけ減らす努力につながるのなら、今回使用した大量の紙は無駄ではなかったと考える。
- ・自分が積極的でないからかもしれないが、何をしているのか分からなかった。
→もう少し何をするにも事前に説明や狙いをみんなにさらに伝えて理解してもらわないといけなかったのが反省点の一つだと思う。
- ・いきなりでびっくりした。
→上の質問と同じで、説明不足だったと思う。
- ・SDGsは何の略なのか。結局何かわからない。
→活動報告の場でSDGsについてもう一度簡単に説明する予定。
- ・学校の様々なところに張り出されていて目に留まり、読むのが楽しかった。
→貼る場所やデザインを工夫したらもっと反響があったのかも。
- ・普段あまり知ることのないGLコースの活動を見ることができて良かった。
→自分たちが思っている以上にGLコースの活動や勉強している内容は伝わっていない。

そういうことを今回のような企画を通してもっと伝えていく努力をしていきたい。

・アンケートの意味があるのか。

→活動報告の場で分析結果を公表することにより、意味があったと思ってもらいたい。意識調査の面では大変意義のあるアンケートだったと思う。

・ポスターをもっと具体的にしたり、イラストを入れたり工夫してほしい。

→分かりにくいという意見はいくつかあったので、そこはもう少し工夫するべきだった。

・社会問題に興味を持つきっかけとなった。

→今回の企画の目標の一つだったので、この意見が出てよかった。

・世界で起きていることに目を向けようと思った。

→上の意見と同じく、この意見が出てよかった。

・標語が面白かったし、読むのが楽しかった。

→それが世界の問題への関心の向上につながっていたらうれしい。

・続けてほしい。もっと長期間貼ってほしい。

→また何か貼れたらいいと思う。

・できる限り世界みんなのために頑張ろうと思えた。

→その気持ちをずっと持っていてほしいし、それを継続できるようにするのが GL コースの役割ではないか。

・目につくところに貼ってあるため、自然と学習できて良かった。

→貼る場所の工夫はこれからどんな掲示をするにしてもよく考えるべきだと思う。

・世界の課題なのに全校生徒が参加していないのは筋が通っていないのでは。

→参加型イベントがあってほしいという声も多かったので、今回の企画での意識向上を踏まえてもう少し参加系の企画を検討できればと思う。

以 上

RSGF2018 生徒実行委員会アクション部署長 梅本怜奈

SGH 推進機構

2018/12/15